

第1日目 2月27日(金)

8:55~

開会挨拶

9:00~9:30

会長講演

「緑膿菌・グラム陰性菌感染症の克服に向けて —検査・治療・研究の新たな展開—」

座長：迎 寛(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 呼吸器内科学分野(第二内科))

演者：柳原 克紀(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 病態解析・診断学分野(臨床検査医学))

共催：日本ベクトン・ディッキンソン株式会社

9:35~10:55

スポンサードシンポジウム1

「サイレントパンデミック時代の AMR 対策：臨床での実践を考える」

座長：大毛 宏喜(広島大学病院 感染症科)

金子 幸弘(大阪公立大学大学院医学研究科 細菌学)

1. カルバペネム耐性腸内細菌目細菌

岡 圭輔(名古屋大学医学部附属病院 中央感染制御部)

2. AmpC β -ラクタマーゼ産生菌

賀来 敬仁(長崎大学病院 臨床検査科 / 検査部)

3. 多剤耐性緑膿菌

川村 英樹(鹿児島大学大学院医歯学研究科 感染症専門医養成講座)

共催：ファイザー株式会社 メディカルアフェアーズ

11:00~12:20

スポンサードシンポジウム2

「持続可能な抗菌薬開発と感染症対策 ～研究・臨床・環境整備～」

座長：山本 善裕(富山大学 学術研究部医学系 感染症学講座)

1. 薬剤耐性菌の難題に挑むバイアスなき視点

森永 芳智(富山大学 学術研究部医学系 微生物学講座)

2. グラム陰性菌感染症の臨床的課題と対応策

山岸 由佳(高知大学医学部 臨床感染症学講座)

3. 持続可能な新規抗菌薬の提供と開発一果たすべき役割

本田 仁(藤田医科大学医学部 微生物学講座・感染症科)

共催：Shionogi 産官学連携部

12:30~13:20

ランチョンセミナー1

「薬剤耐性グラム陰性菌感染症の診療」

座長：松本 哲哉(国際医療福祉大学医学部 感染症学講座)

演者：宮崎 泰可(宮崎大学医学部 内科学講座 呼吸器・膠原病・感染症・脳神経内科学分野)

共催：バイオメリュー・ジャパン株式会社

13:25~14:50 **総会・みのるメモリアル受賞講演**

14:50~15:40 **特別講演1**

「腸炎ビブリオの病原性機構と宿主適応戦略」

座長：新井 博之(東京大学大学院農学生命科学研究科)

演者：児玉 年央(長崎大学熱帯医学研究所細菌学分野)

15:45~16:15 **教育セミナー1**

「グラム陰性菌感染症の不思議とレスピラトリーキノロンの可能性」

座長：山本 和子(琉球大学大学院医学研究科 感染症・呼吸器・消化器内科学講座(第一内科))

演者：保富 宗城(和歌山県立医科大学医学部 耳鼻咽喉科頭頸部外科)

共催：杏林製薬株式会社

16:20~17:10 **スイーツセミナー**

**「グラム染色が切り拓く感染症診療の新しいスタンダード
ー 臨床連携と AI・自動化による実装 ー」**

座長：掛屋 弘(大阪公立大学大学院医学研究科 臨床感染制御学附属病院 感染症内科・感染制御部)

1. グラム染色 AI・自動化によるグラム陰性菌感染症診療の変革への期待

上糞 義典(慶應義塾大学 医学部臨床検査医学)

2. 日常診療におけるグラム染色の活用

忽那 賢志(大阪大学大学院医学系研究科 感染制御学)

共催：株式会社 GramEye

17:15~18:35 **スポンサードシンポジウム3**

「緑膿菌・グラム陰性菌感染症診療における検査の活用を考える」

座長：小林 寅喆(東邦大学 看護学部 感染制御学研究室)

泉川 公一(長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 臨床感染症学分野)

1. 緑膿菌・グラム陰性菌感染症の現状と治療戦略 ー薬剤耐性の最新疫学と対応策ー

中村 茂樹(東京医科大学 微生物学分野)

2. 緑膿菌・グラム陰性菌診療・制御における活用 ー 埼玉医大の取り組み ー

関 雅文(埼玉医科大学 医学部 国際医療センター 感染症科・感染制御科)

3. 緑膿菌・グラム陰性菌感染症をはじめとした感染制御に向けた地域全体での取り組み

嵯峨 知生(秋田大学医学部附属病院 感染制御部／秋田大学医学系研究科附属感染制御総合センター
感染統括制御部門)

共催：株式会社島津製作所

18:50~ **懇親会**

会場：長崎大学医学部 生協食堂

8:20~9:10 モーニングセミナー

「次世代シーケンス技術を用いた感染症原因微生物検索の臨床的意義
～グラム陰性菌を中心に～」

座長：柳原 克紀(長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 病態解析・診断学分野)

演者：三嶋 廣繁(愛知医科大学医学部 臨床感染症学講座)

共催：APG アジア準訳ジャパン

9:15~9:55 特別講演2(本部会長講演)

「コロナパンデミックから何を学ぶか
～サイレントパンデミック AMR 問題を含めて～」

座長：柳原 克紀(長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 病態解析・診断学分野)

演者：館田 一博(東邦大学医学部 微生物・感染症学講座)

共催：アボット ダイアグノスティクス メディカル株式会社

10:00~10:30 教育セミナー2

「起因菌検出を臨床につなぐための同定判断
～市中病院微生物検査室における実践と課題～」

座長：小林 治(国立がん研究センター中央病院 感染症部)

演者：黒岩 晃(社会医療法人天神会 新古賀病院 臨床検査課)

共催：ベックマン・コールター株式会社

10:35~11:35 緑膿菌・グラム陰性菌感染症研究会
海外学会参加サポート事業 受賞者報告

座長：青柳 哲史(東北大学大学院医学系研究科 感染病態学分野)

国際化推進奨励賞

「Genomic analysis of polymyxin-resistant *Acinetobacter colistiniresistens*
coproducing IMP-1 and OXA-58

－ FASEB SRC - Biology of *Acinetobacter* XIV 参加報告－」

演者：西田 智(帝京大学 医学部 微生物学講座)

異分野連携奨励賞

「血液悪性疾患患者における *Stenotrophomonas maltophilia* 感染症の
適切な診断と治療に向けて」

演者：酒匂 崇史(国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 臨床感染症科)

「細菌感染症を in vivo イメージングで可視化する」

演者：鴨志田 剛(明治薬科大学 感染制御学研究室)

「微生物検査における細菌同定用質量分析装置：Autof ms2600の有用性」

座長：賀来 満夫(聖マリアンナ医科大学 感染症学講座)

演者：小佐井康介(長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 病態解析・診断学分野／
長崎大学病院 臨床検査科・検査部)

共催：株式会社医学生物学研究所

座長：國島 広之(聖マリアンナ医科大学感染症学講座)

1. 介護老人保健施設における入所者の各種抗菌薬耐性グラム陰性桿菌の保菌に関する検討
勝瀬(金山) 明子(東邦大学看護学部 感染制御学)
2. IMP-7メタロ- β -ラクタマーゼを産生する広範囲薬剤耐性緑膿菌 ST357の系統解析
西田 智(帝京大学医学部微生物学講座)
3. Whole genome sequencing を用いた分離材料別の緑膿菌の ST および病原遺伝子の解析
鍋島 賢人(長崎大学病院 検査部)
4. メタゲノム解析による便由来大腸菌集団の ST 頻度解析に向けた ST131 特異的配列の特定
津田 裕介(京都大学大学院医学研究科 臨床病態検査学)
5. セフィデロコル high-MIC チャレンジパネル株に対する
セフィデロコル/ゼルボロバクタムの薬剤感受性評価
原 貴史(塩野義製薬株式会社 創薬疾患研究所)
6. 集中治療室における IMP 型カルバペネマーゼ産生 *Pseudomonas aeruginosa* 検出への
対応と感染対策
糸瀬 柊人(長崎大学病院 検査部)
7. 当院および地域のグラム陰性耐性菌や広域抗菌薬使用状況からみえる今後の活動の課題
掛屋 弘(大阪公立大学大学院 医学研究科 臨床感染制御学)

座長： 荘司 長三(名古屋大学)

1. 緑膿菌集団内で形成される生死の境界にある細胞壁欠損細胞の解析
杉山 夏月(筑波大学・生命地球科学研究群)
2. 緑膿菌における細胞外膜小胞を介した物質送達に関与する因子の探索
小松 詩温(筑波大学大学院 生命地球科学研究群 生命農学学位プログラム)
3. 気管挿管チューブに高度付着した *Acinetobacter baumannii* の高病原化メカニズムの解明
鴨志田 剛(明治薬科大学 感染制御学研究室)
4. 硫化水素が緑膿菌バイオフィルムの抗生物質耐性に与える影響の解析
樋口 佳那(筑波大学 生物資源科学学位プログラム)
5. 反復性膀胱炎由来大腸菌の抗菌薬抵抗性とバイオフィルム形成能について
村上 圭史(川崎医療福祉大学 医療技術学部 臨床栄養学科)
6. 臨床分離多剤耐性緑膿菌株に対する抗体 mRNA 療法の開発
木下 真央(京都府立医科大学 麻酔科学教室)

「CRE 感染症を考える」

座長： 佐和 貞治(京都府立医科大学)

原田 壮平(東邦大学)

1. 腸内細菌目細菌および緑膿菌の薬剤耐性機構：カルバペネム耐性遺伝子とプラスミドの特徴
鈴木 仁人(国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 薬剤耐性研究センター)
2. カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症の検査を考える
大楠 清文(東京医科大学 微生物学分野)
3. カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症の治療：適正使用を考える
荒岡 秀樹(虎の門病院 臨床感染症科・中央検査部)

共催：Meiji Seika ファルマ株式会社

「グラム陰性菌の巧みな生存戦略に迫る」

座長：野村 暢彦(筑波大学 高等研究院・生命環境系・MiCS)

間世田英明(国立研究開発法人産業技術総合研究所)

1. 大腸菌の細胞外機能性アミロイドの制御機構の解明

杉本 真也(東京慈恵会医科大学医学部・細菌学講座／東京慈恵会医科大学・先端医学研究拠点群・バイオフィルム研究センター／東京慈恵会医科大学・プロジェクト研究部・アミロイド制御研究室)

2. 莢膜スイッチを活用した *Acinetobacter baumannii* の環境適応戦略

老沼 研一(大阪公立大学 大学院医学研究科)

3. UPEC の尿路感染維持における環境応答ネットワーク：
新規関与因子とバイオフィルム形成の制御

平川 秀忠(群馬大学大学院医学系研究科 細菌学)

4. 現場のプラクティスを変える全ゲノム解析の普及を目指して

青木弘太郎(東邦大学医学部微生物・感染症学講座)